

港南台タウンカフェ通信

ふのん

風わたる穏やかなまちの情報誌

2018.10 vol.9

¥ ころ



中学生レポート#22-23 中学生、仕事人に出会う

つなぐ手の楽しさで、心も体もいつもフレッシュ！
イヨリダンススタジオ港南 伊従 彰造・優子さん

ころBOXレポート

歌うように刺繍を
特定非営利活動法人 港南福祉ホーム

壱岐生まれのイキのいい女
人と人を繋ぐ名人 民生委員 塩澤 うめのさん





撮影/さいとうたもつ

- 15 港南台商店会会員マップ
- 17 港南台の魅力再発見
商店会若手メンバー大いに語る
わがまち港南台のいまとこれから
- 19 [ころBOXレポート] close up 生き活き人
壱岐生まれのイキのいい女
人と人を繋ぐ名人 民生委員 塩澤うめのさん
- 21 港南台まちなか1000人インタビュー[vol.9] PART 2
2018年 夏・編>しあわせだなあと感じるときは？
- 22 すたっふつぶやき バックナンバー



contents

- 02 ココドコ?
- 03 つなぐ手の楽しさで、心も体もいつもフレッシュ!
イヨリダンススタジオ港南 伊従彰造・優子さん
- 05 ココドコ?
- 06 中学生レポート #22-23
中学生、仕事人に出会う
中学生が見て感じて伝えるまちのシゴト
- 12 港南台まちなか1000人インタビュー [vol.9] PART 1
2018年夏・テント村編>しあわせだなあと感じるときは?
- 13 [ころBOXレポート] close up活き活き活動
歌うように刺繍を
特定非営利活動法人 港南福祉ホーム



つなぐ手の楽しさで、
心も体もいつもフレッシュ!

イヨリダンススタジオ港南

伊従 彰造・優子さん Shozo Iyori / Yuko Iyori

レポート◎金子 いずみ/竹田 真奈美 文◎金子 いずみ 撮影◎斉藤 保
取材日◎2018年7月26日

窓から見える別世界



港南台駅を出て右へ5分ほど歩くと、ビル窓に大きく「イヨリダンススタジオ港南」の文字が見える。映画『Shall we ダンス?』で通勤途中の主人公が見つけた別世界がここにもあるのだろうか。

2階に上がり、そうっと扉を開けると、床はフローリング、壁は白の鏡張り。スタジオは明るい。迎えてくれるのは、伊従彰造さんと、ラテン系の衣装をまとった優子さん。素晴らしいプロポーションに眼を奪われる。二人で踊ればその華麗なステップのため息が出るばかり。

ダンスはリハビリだった



彰造さんはダンスとは無縁だった。高校時代はハンドボールの選手で、アスリートとしての人生を考えていた。スポーツ推薦での大学入学を控えた高校三年生の冬、膝の半月板靭帯を断裂。選手生活を断念せざるを得なかった。松葉杖をつきながら、新たな道を探して受験勉強に取り組み、一浪して、東京理科大学に進む。大学のサークルで社交ダンスを始めた。「ダンスなら怪我しないし、リハビ



リにちょうどいいと思ったんです」

と、思った。けど……笑い声がその後のプロとしての精進を語っている。大学対抗で強豪校と競い、全日本学生ダンス競技会で個人優秀賞を獲得する。卒業後はダンススクールに就職し、コンクールではさらに高みを目指していった。

お見合いは決裂?



優子さんは、幼少から始めたフィギュアスケートで、国体やインターハイに広島・西日本代表として出場したという経歴の持ち主である。スケートのために様々なダンスを習い、社交ダンスにたどり着いた。

二人の出会いはなんと「お見合い」。コンクールに出場するには、技術の釣り合うパートナーを探さなくてはならない。それぞれの師匠から紹介されて、初めて会い、

踊ってみた。優子さんは初めはお断りしたという。

「わたしは踊りが合わないと思ったんです」。彰造さんからの電話を切ったとたんに、もう一度コールが。「僕は合うと思う。練習すれば合うようになる」。

そしてパートナーを組む。ダンスのカップルはプライベートも付き合うとは限らないそうだが、練習後の食事をずっとおごってもらって「餌付けされたんですね」と優子さんは楽しそうに笑う。やがて結婚。ちょうど後継者を探していた港南台の今のスタジオを引き継ぐことになって、スクールを始めた。

この街の温かさ

東京から港南台に活動拠点を移して感じるのは、上品な街、アットホームな雰囲気だと言う。都会のスタジオでは生徒さんにはレッスンは終わればちりぢり。この街では、お互いが知り合いだったり、ここで知り合いになったり。生徒さんはリタイアした年代が多い。年若い先生を囲んで和気あたたかいとレッスンは続く。

芸人のキンタロー。がテレビ番組の企画で世界大会へ出場し、社交ダンスがちょっと注目されている。彰造さんがこの番組に相手役として出演したときも、生徒さんたちはみんなテレビの前で応援。「ところ



が、扮装していてどれが先生だかわかんなかったのよ」と笑い合う。

社交ダンスの楽しみ

ワルツやタンゴは腕を組んで踊り、ルンバやチャチャでは手だけをつなぐ。「夫婦でもない異性が」と眉をひそめる向きもあるようだが、「なんと言っても健康に良いのが一番です」と七十代の男性。便秘が良くなったという人もいれば、体のゆがみが分かったという方も。そして男女とも皆さん口を揃えて「とにかく楽しい！」。

優子さんによると、社交ダンスではいろいろなことを同時にやる必要がある。体だけでなく、ステップを覚えるのに頭も使う。耳で音楽を聴いてリズムを取る。一人でやるスポーツと違って、常に相手を思いやる必要がある。異性を相手にすれば、自然と身だしなみにも気をつける。若さを保つには最適の運動なのだという。

若く、美しく、楽しく

彰造さんは優秀賞を受賞しただけあって、スタジオに立つときりりと美しい。だが、いつも「自分を作りすぎないようにしている」。家でも仕事でもあまり変わらないという自然体。そして生徒さんをリードして踊る間は、にこやかに目を配る。レッスンを受けているのは口コミで集まってきた人が多いというのも頷ける。

「見た目がキレイだから」

そんな理由で始めた女性も、足腰が軽くなったと生き生きしている。社交ダンスで美と健康と、地域での人の輪が育まれていく。この街で、8年目の夏を迎えたイヨリダンススタジオ港南は、日常とかけ離れた「別世界」ではなく、港南台の人々の「自分たちの世界」に輝きを添えている。



イヨリダンススタジオ港南

横浜市港南区港南台 4-23-27
第2 荒井ビル2F
TEL : 045-835-5668
営業時間 : 11:00 ~ 21:00 (時間外要相談！)
定休日 : 日曜日



ココドコ?

中学生、仕事人に出会う

中学生が見て感じて伝えるまちのシゴト



取材前にサポーターさんからアドバイス



大切なことを聞き逃さないように・・・



なんども書き換えながら、伝えたいことをまとめる

「中学生、仕事人に出会う」レポート活動概要

活動期間： 2018年2月～5月

レポーター： 土屋 志恵留／深井 梨沙／松島 さくら／山本 真美

サポーター： 遠藤 志麻／金子 いずみ／菅野 裕子／塩崎 水映子／竹田 真奈美

協力： 港南台第一中学校／横浜港南台商店会

取材協力： 梅乃井珈琲／赤い屋根保育園

運営事務局： 港南台タウンカフェ(株式会社 イータウン) <http://www.town-cafe.jp>

※イラストもレポーターによるものです。

このレポートはウェブサイトにも公開されています。<http://www.e-town.ne.jp/feature/shigoto/>

#1-21 はバックナンバーをご覧ください。

サポーター



今回、はじめてサポーターとして取材し、貴重な体験をさせていただきました。初日は緊張していましたが最終確認の日には話が脱線するほどたくさんお話できてとてもうれしかったです！一回の取材の中で、一人一人ちがう発見や気づきがあり楽しかったです。(遠藤 志麻)



中学生の皆さんの、まっすぐで素直な表現が、読んでくださる皆さんへも伝わってくるかと思います。ご一緒させていただいて、私も楽しかったです。ありがとうございました。(竹田 真奈美)



不慣れで、たいしたサポートができずすみません。でも、楽しかったよね！忙しい中学生生活の中でも、普段とちょっと違うこの経験が、どこかのポケットにしまわれて、いつか何かのヒントになったらいいなと思います。(金子 いずみ)



甘いお菓子をポリポリ食べながら天を仰ぎ、みんなで言葉が降ってくるのを待ちましたね。ぴったりの言葉が見つかった時の喜びと言ったら！！昨年の中学生レポーター志麻ちゃんが先輩として参加してくれて一緒に活動できたのも、とてもうれしいことでした。(菅野 裕子)



園児のお昼寝タイム、静かな保育園。子どもの「気持ち」と先生の「言葉」の在りように、インタビュアーが感じたことが素直に紡がれていて、今年も素敵な現場に立ち会えた幸せを噛み締めています。(塩崎 水映子)



手際よく、でも飲む人を想って

コーヒー 一杯一杯に心をこめて

梅乃井珈琲 店長 中島 誠さん Makoto Nakajima

インタビュー◎土屋 志恵留 記録◎遠藤 志麻 文◎土屋 志恵留／深井 梨沙
撮影◎深井 梨沙 サポーター◎遠藤 志麻／金子 いずみ／菅野 裕子
取材日◎2018年3月12日



お店に入るとふわりと私たちを包み込むコーヒーの香り。そして、アンティーク調にまとめられた内装に自然と心やすらぐ喫茶店、梅乃井珈琲。そんな梅乃井珈琲店長の中島さんに、今回お話を伺いました。

コーヒー一筋40年、中島さんの淹れるコーヒーは、ほろ苦い大人の味の中に優しさがにじみます。

コーヒーに対する思い

中島さんはとてもコーヒーがお好きで昔からこの様なお仕事をやってみてきたそうです。学生時代にアルバイトを始め、そのまま就職して、今ではそのやりたかった事をお仕事として頑張っています。こだわりも強く、お客様にコーヒーを提供する際には毎回淹れたてを提供しています。淹れたてならではの香りと味を楽しんでもらうために作り置きは一切しないそうです。

お店の魅力

梅乃井珈琲で働いている人もお店の印象も落ち着いていて、店内にはコーヒーの良い香りが漂います。常連さんは勿論、初めて来たお客さんも何

UMENOI 梅乃井珈琲 COFFEE since 1955

気ない会話を楽しみながらコーヒーを口に運ぶと、こちよい苦味が広がる、そんな贅沢なひと時を楽しめるところも一つの魅力でしょう。

ささやかな日常の中で

「港南台の中で、梅乃井珈琲はどんな存在になっていると思いますか？」という質問に、「地元密着型」だと中島さんは答えて下さいました。

長年通っている常連さんが多く、いろいろなお客さんと接する機会が多いので働いていて楽しいそうです。

店内は、がやがやしているわけではありませんが、お店にいるお客さんそれぞれが自分の時間をこちよく過ごせるように…。中島さんはコーヒーを淹れている合間もお客さんを見るなどさりげない気配りをしていきます。

お客さんとたくさん交流しているが故に、同じ時間、同じ席で、同じものを変わず頼む常連さんがお店に来ないと気にかかるのだと言います。このように、自然に心配できるからこそ地元密着型といえるのだなと思いました。お店で働く人とお客さん、お互いの名前を知らなくても気づいたらそれ

その存在が日常の一部になっている。中島さんにとって、そんなささやかな毎日が長年働き続けられる理由の一つではないかと思えます。

この先もずっと…

昔から今にいたるまで沢山の人々に愛され親しまれてきた梅乃井珈琲。現代の建物の中に一つぽつんと時の流れが止まっているような空間、そんなレトロな空間が港南台の人々を癒してくれます。

優しくも大人な香りがする場所。コーヒー一筋40年—

中島さん曰く、「コーヒー一杯一杯に心を込めて あなたのための一杯」



こだわりのサイフォンで淹れる特別な一杯



梅乃井珈琲
 横浜市港南区港南台 3-1-3
 港南台パーズ 3F
 営業時間：10:00～21:00
 定休日：1月1日 / 2月 第3火曜日 /
 9月 第2火曜日（年間3日）
 TEL：045-832-0946
 FAX：045-832-0946



自分のことを好きでいて欲しい

赤い屋根保育園

主任保育士 進士 知香子さん Chikako Shinji

インタビュー・記録・文・撮影◎松島 さくら／山本 真美
 サポーター◎塩崎 水映子 竹田 真奈美
 取材日◎2018年3月27日



「赤い屋根保育園の自慢は何ですか？」と聞くと、今回インタビューを受けて下さった進士知香子先生は、「子どもたちが元気で、職員の間が良いこと！」と笑顔で答えて下さいました。

園内を回ると沢山の先生方が笑顔で挨拶して下さいました。

嬉しいこと

「保育士の仕事をしていて一番嬉しいことは何ですか？」と聞くと、先生は、

「卒園した子が来てくれること。子どもたちの成長するのを見られるのも楽しみ」と答えてくださいました。

自分を好きでいてほしい！

「子どもに大切にしてほしいことは何ですか？」という質問には、「自分の気持ちを大切にして、自分を好きでいてほしい」と、進士先生はにこやかに答えて下さいました。それを子どもたちに伝えるため、命に関わること、他の子を傷つけてしまうこと以外は、「ダメ！」という言葉はすぐには使わないようにし

ているそうです。

すぐに「ダメ！」と言うと子どもの気持ちが消えてしまう…。

小さい子は、自分が思っていることを言葉にするのが難しいので、「〜したかったんだよね」と一度子どもの心に寄り添い、共感してあげてから「でも〜は違うよね」と言うようにしているそうです。

自分の気持ちを大切にしてほしい、という進士先生の思いが伝わってきました。

子ども同士で育て合う

赤い屋根保育園では3〜5歳を対象に異年齢教育も取り入れてあります。小さい子は自分より大きい子へ「かっこいい！すてき！」などの憧れを持ち、大きい子は自分が小さい時にしてもらったことをしてあげられる喜びを持つことができます。子どもたち同士で成長できる事が良いのだそうです。

港南台との関わり

港南台にある保育園は、年長さんたちの交流会や先生方の[※]情報交換会などで沢山の地域の人たちと仲



にこやかに話す進士先生

良く触れ合っているそうです。これを聞いて、港南台は子育てのしやすい地域なのだと思います。

取材を終えて…

子どもたちとたくさん遊べて楽しくても、保育士の仕事はきつと大変だろうなと思っていたけれど、進士先生は大変だと感じていないとおっしゃっていたのが印象的でした。先生は保育士の仕事が好きなんだなと思いました。自分もこの保育園で異年齢教育を受けて、小さい子のお世話をするのが楽しかったのを思い出しました。(松島)



一般の方にも開放している図書コーナー



卒園記念の花壇



取材前は、ただ子どもが好きで保育士になりたいと思っていましたが、取材すると子どもと遊ぶだけでなく、先生方には力仕事や整理整頓、安全管理など大変な仕事も沢山あるのだという事が見えてきました。子どもたちが成長するのが楽しみだという言葉聞いて、自分もそ

う思うようになるのかなと思います。(山本)

※注 港南台子育て連絡会

港南台地域の保育機関、行政、子育てグループ、プレイパークなどのネットワーク



あかい屋根保育園
 港南区港南台 5-3-1
 開園時間：7:00～20:00
 休園日：日曜日
 TEL 045-833-9991
 FAX 045-833-9995



編集後記



今回、赤い屋根保育園に取材をして、する前には思っていなかった意外なことを知れたりして、すごくやって良かったなと思いました。また、私はこういった活動が初めてだったのですごく緊張したのですが、「ふ〜のん」の方が優しくサポートしてくれたので楽しんで活動することが出来ました。(松島 さくら)



今回、自分で実際にインタビューして記事を書いて、みんなで推敲するなど普通なら体験できないことを体験できて緊張もしたけどそれ以上に楽しかったです。最初は自分にできるか心配でしたが、一緒に取材した仲間や先輩、サポーターの方が色々アドバイスをくれたのでスムーズに進めることが出来ました。そして取材を通して港南台についてまた一つ知ることが出来たので、このまちに住んでいる人にもっと知ってもらいたいと思いました。(土屋 志恵留)



今回の取材では、カメラを担当しました。たくさん良い写真を撮れたのは良かったのですが、撮る際はとても苦労しました。私にとっては一眼レフで撮るのも初体験だったのでカメラの扱いもろうですし、何よりも腕が疲れます。アングルも良いアングルから撮らなければいけないのでどのような所から撮れば良いか試行錯誤しました。結果、足腰が筋肉痛になりました。日々運動不足なのが響いたのでしょうか。辛かったです。ですが、とても楽しく貴重な体験になりましたし、良い思い出にもなりました。一つ心残りなのは、取材内容をじっくり聞けなかったことです。(深井 梨沙)



今回、赤い屋根保育園に行かせてもらいました。すごく将来に役立つことはわかり教えてくれました。私は将来、保育士になりたいので、すごく楽しかったです。こういった活動は初めてだったので緊張したけど、だんだん楽しくなり、やってみてよかったです。(山本 真美)





256. 高校生



257. 高校生



258. フリマ初出店の二人 (かわろそ代理)



259. 港南台在住



260. 磯子区在住 小4



261. 栄区在住



262. 磯子区在住 小4



263. 磯子区在住 小2



264. 手作り石けん作家

テント村編

しあわせだなあ

と感じるときは?

PART ①

創刊号 1~66人
 vol.2 67~114人
 vol.3 115~145人
 vol.4 146~169人
 vol.5 170~197人
 vol.6 198~219人
 vol.7 220~236人
 vol.8 237~255人まで掲載

歌うように刺繍を

特定非営利活動法人 港南福祉ホーム

1984年、港南台七丁目の第二保育園の隣に建設され、今年で34年目になる港南福祉ホーム（以下ホーム）。勤めて13年目になる大瀧陽子さんが、ホームの活動について丁寧に説明して下さった。

大瀧さんは、就職活動でホームを見学に来た時に、利用者さんの過ごしている雰囲気が良いことで働きたいと思って、就職を決めたという。

ホームは、様々な障がいのある方が利用できる通所施設である。住み慣れた地域で仲間たちと出迎え、自らがどう暮らしたいかを考えられる場所となっている。地域の方に対しても支えられるだけでなく、行事や活動などを企画し、積極的に交流を進めることで、地域貢献や社会参加に繋がることを目指しているという。現在、20歳から74歳までの25人が通っている。利用者のお親御さん達から活動が始まり、2007年にはNPO法人となった。

ホームでは、利用者が充実した日々を過ごすために、自主製品を作成し販売している。作品は多岐にわたり、七宝焼き、刺繍、織物、ビーズ



ZOKU
ZOKU

レポート◎菅野 裕子／倉松 久美子 文◎倉松 久美子 撮影◎菅野 裕子 取材日◎2018年7月23日

アクセサリ、ステンシル等、一つ一つ丁寧に作られていた。毎年一月には、港南台バース1階のドウ・ファッションプラザで、これらの作品を販売、展示する「港南福祉ホーム活動展」も開催されている。

sing a sewing

障がい者と、多様な分野のプロフェッショナルによる現代アートの国際展、パトリエンナールに2014年からホームも参加することになった。そこで日本のファッションブランド、ミナペルホネン※の布地に、ホームの方が自由に刺繍をするsing a sewingというプロジェクトが始まった。色々な人に作品を見てもらいたいと、刺繍作品を展示しワークショップを開催、更に2017年には作品を額装して展示した。

その時の作品には、今までとは違う個性があった。自主製品は基本に沿って仕上げられていた



特定非営利活動法人 港南福祉ホーム
横浜市港南区港南台 7-25-22 TEL 045-832-9337

が、sing a sewing の作品は独創的で斬新なものだった。ミナペルホネンの布地の柄と、自由に施された刺繍との融合。絵画の一筆一筆のような、一針一針。基本に捉われることなく自由に刺繍された布地は、紛れもなく世界に一つしかないアート作品だった。

ホームで最年長の武川清次さんは、お花が好きだそうで、刺す場所に刺繍糸の色を合わせては、花の中心から刺していく。やがて、花が色付き、輪郭が現れてくる。「人のためになるものがない」武川さんは、そう思いながら刺繍をしていると言う。波縫い、長く短く、細かく緻密な、自由なラインで、沢山のステッチが重なり合い、力強い作品ができていく。武川さんのように自由を楽しめる人もいれば、中には戸惑いを感じる人もいて、自由の捉え方も人によって違うそう。始まりから3年が経ち、sing a sewing も形になってきたと、大瀧さんは振り返る。



刺繍の花が彩るバッグ

ZOKU ZOKU プロジェクト

パタリエンナールのワークショップで、新たな出会いが訪れた。デザイナー、縫製作家、映像作家の方々と、誰かの日常にそっと寄り添う小さなアートを作っていきたいと ZOKU ZOKU



プロジェクトが始まった。作品は全ての人にとってアートにはなり得なくても、誰かにとってはアートになる可能性がある、という考えからだった。



ホームの中井さんが刺繍した布は、縫製作家のアイデアで花に形作られた。港南区役所から依頼された見守りステッカーは、前村さんのイラストと岩本さんの刺繍で、デザイナーと一緒に作り上げた。皆で話し合っただけで決めたプロジェクト名の通り、専門家とのやり取りによって、続々と作品が生まれていく。

人と人を繋ぐ刺繍

自主製品の刺繍から始まって、ミナペルホネンの布地に自由に刺繍をする sing a sewing、その作品により出会った人達と制作する ZOKU ZOKU。刺繍から広がっていく、人との繋がりが。それこそ一つの作品の一針一針のように、丁寧に力強く繋がっていく。

私達は障がい者と健常者で違うと考えがちだ。

確かに日常生活においては同じようにはいかないかもしれない。でも、アートの世界においては違いがあろうとなかろうと、ただそこに人を惹きつける作品があると、いう真実。それがゆえに、これからも彼らの作品は見る人を魅了し、人と人を繋いでいくのだろう。

※ミナペルホネン

ファッションデザイナー、皆川明が設立したブランド。自然の情景や社会へのまなざしからデザインを進め、日本各地の生地産地と連携し、テキスタイルを生み出している。



大野千鶴江さん



武川清次さん



大胆で色鮮やか

住宅・不動産

- 23 (有)アライビル 045-832-2331
- 24 (株)小川不動産 045-833-2103
- 25 (株)アイハウス 045-353-7635
- 26 福島SPC 045-835-2076
- 27 (有)丸吉商事 045-831-4513
- 28 村木不動産商会 045-832-2325
- 29 (有)洋光 045-831-1831
- 30 ヨコハマファイビル 045-832-2476
- 31 (株)リビングパートナー 045-836-2860
- 32 若林不動産(株) 045-831-8291
- 33 (株)キクシマ 045-833-3663

ショッピング

- 34 港南台タウンカフェ 045-832-3855
- 35 (株)一幸堂 045-831-1510
- 36 オカモトジュエリーアトリエ&ショップ 045-835-1233
- 37 小原オートサービス 045-831-6336
- 38 お酒・お米の専門店SHOWBILL 045-832-1400
- 39 (株)スエヒロ港南台 045-831-6184
- 40 はなよし 045-833-2721
- 41 B&C SHOP 045-834-0769
- 42 ブックスキタミ港南台店 045-831-3246
- 43 お茶と海苔のいしだ園 045-833-3448
- 44 ワイショップ港南台 045-833-9833
- 45 タイヤハウスオカジマ 045-833-1785
- 46 (株)マック 045-847-0951

生活サービス・その他

- 47 クリーニングミコ 045-832-2431
- 48 イヨリダンススタジオ港南 045-835-5668
- 49 (有)エルウェーブ港南台スイミングスクール 045-832-2407
- 50 (有)神奈川空調工業 045-864-0633
- 51 ぐらしの友港南台総合斎場 045-836-3430
- 52 港南台駅前郵便局 045-833-1686
- 53 シロヤクリーニング港南台店 045-834-0456
- 54 シアス港南台 045-832-1800
- 55 添田悦子税理士事務所 045-832-4537
- 56 ENEOS・辰巳興産 045-832-5883
- 57 (株)はまかせ新聞社 045-662-4390
- 58 ファミリー・ホール港南台斎場 045-831-9000
- 59 ライフプランクニック 045-832-0770
- 60 (有)加藤豊店 045-842-1781
- 61 (有)ヘアサロン・スカット港南台 045-832-5958
- 62 (株)アップス 045-349-3745
- 63 横浜港南台東郵便局 045-831-3733
- 64 横浜清水橋郵便局 045-833-4100
- 65 ポーラザビューティ港南台店 045-832-7374

(2018.7.31現在)



横浜港南台商店会 会員マップ

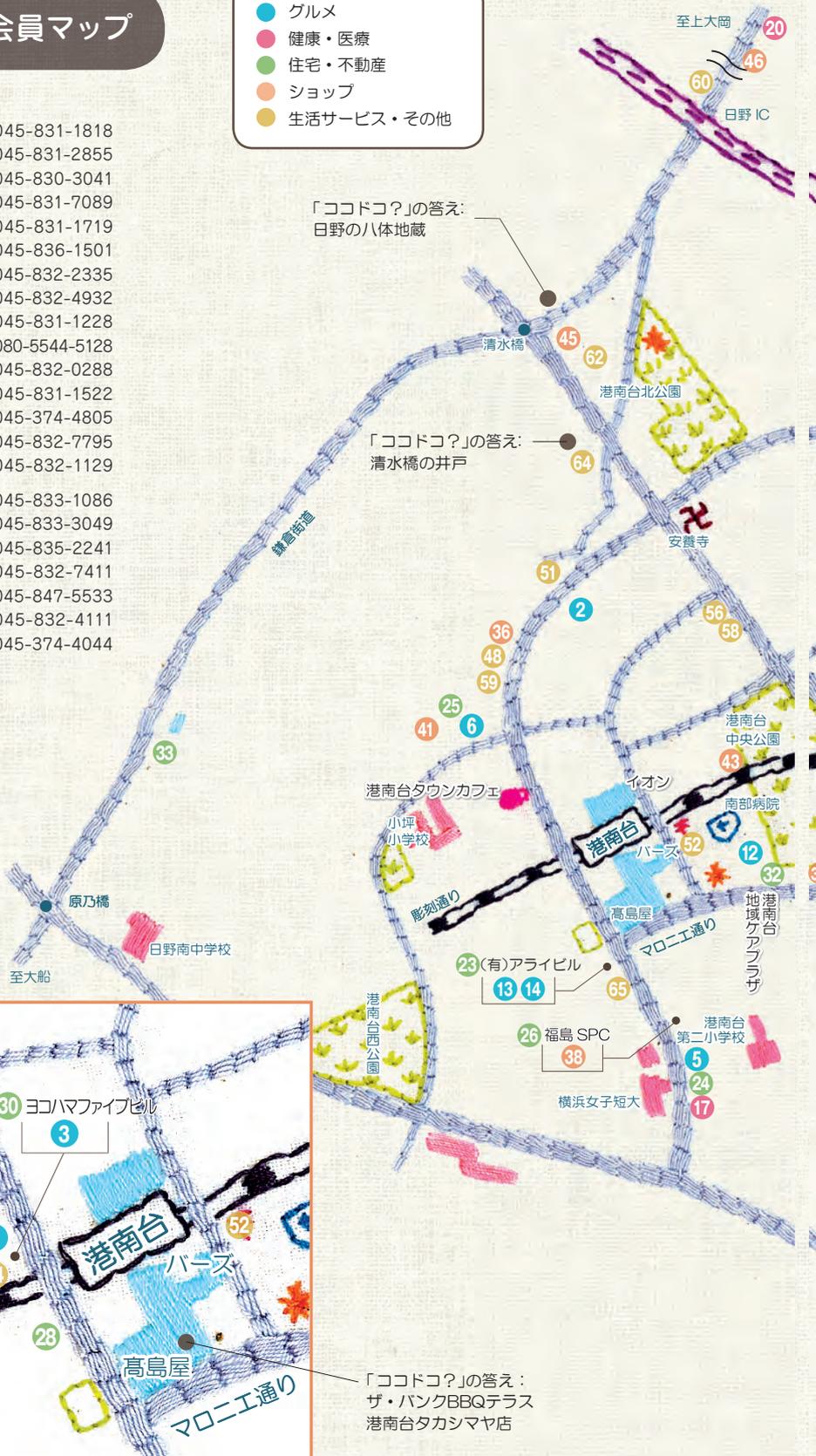
- グルメ
- 健康・医療
- 住宅・不動産
- ショップ
- 生活サービス・その他

グルメ

- | | | |
|----|------------------|---------------|
| 1 | かつば天国 | 045-831-1818 |
| 2 | せんざん港南台本店 | 045-831-2855 |
| 3 | 庄や港南台店 | 045-830-3041 |
| 4 | ばねとんちーの | 045-831-7089 |
| 5 | モスバーガー港南台店 | 045-831-1719 |
| 6 | Angeアンジュ Dogcafe | 045-836-1501 |
| 7 | Café and Bar Pea | 045-832-2335 |
| 8 | カウンターパブけいちゃん | 045-832-4932 |
| 9 | D's BAR | 045-831-1228 |
| 10 | 呑み食い処 おかえり | 080-5544-5128 |
| 11 | 炭火串焼き らしょうもん | 045-832-0288 |
| 12 | 境寿し | 045-831-1522 |
| 13 | 江戸前天ぶら 天八 | 045-374-4805 |
| 14 | SING 88 | 045-832-7795 |
| 15 | 九州焼肉 たらふく | 045-832-1129 |

健康・医療

- | | | |
|----|------------------|--------------|
| 16 | 指圧・マッサージセンター港南台 | 045-833-1086 |
| 17 | 東海メカネ・コンタクト | 045-833-3049 |
| 18 | 杉田接骨院 | 045-835-2241 |
| 19 | ファミリーマートサカイヤ港南台店 | 045-832-7411 |
| 20 | 清水橋クリニック | 045-847-5533 |
| 21 | まるつか動物病院 | 045-832-4111 |
| 22 | かなで接骨院 | 045-374-4044 |



「ココドコ？」の答え：
日野の八体地蔵

「ココドコ？」の答え：
清水橋の井戸

「ココドコ？」の答え：
ザ・バンクBBQテラス
港南台タカシマヤ店

商店会の若手メンバー大いに語る



熱心に語り合う若手メンバー。左から、鈴木由美子（いしだ園）、恩田学（一幸堂）、荒井和彦（ヨコハマファイブビル）、岡本征一（オカモトジュエリー）

わがまち港南台のいまとこれから

「若い人たちで、やりたいことをやってごらん」。横浜港南台商店会前会長の故稲村昌美さんの後押しで、商店会の若手メンバーが初めて顔を合わせたのは2012年。あれから6年、まちあるスタンプラリー（ふ〜のんvol.3 p27～28参照）、「ちよい呑み」など新たなイベントに取り組み、商店会の中核となって奔走する4人に、商店会やまちへの想いをうかがった。

レポート◎菅野 裕子 撮影◎齋藤 保 取材日◎2018年8月3日

鈴木由美子さん
（いしだ園 三代目女将）

「ちよい呑み」を提案した鈴木由美子さんは、「港南台に住む人に、こんな店があるよと紹介し合えるツールとしてびったりだと思って」。他のまちの「ちよい呑み」にも参加しノウハウを持ち帰った。案内チラシを配布した

この夏、港南台タカシマヤの屋上で行われたパーベキュー交流会は、横浜港南台商店会（以下、商店会）のいまを象徴するにぎやかな地域交流の場となった。主催した商店会以外にも、自治会や地域団体などから多数参加し、総勢約100名。食材や飲み物は、会員の店で調達した。商店会の暑気払いくらいの気軽な気持ちで始めて2年目。仕掛けた当の若手メンバーたちがその人数に驚いている。

これまで3回のスタンプラリー、4回の「ちよい呑みフェスティバル」を開催。会員以外の地域事業所や店舗にも参加を呼びかけ、まち全体を盛り上げることを目指してきた。

「自分がやりたいことをやるのが、いちばん会員の増加につながるのかもね」と4人は楽しそうに口を揃える。

恩田学さん
（一幸堂 二代目社長）

会員増強を目標に

港南台のまちづくりが盛んに行われた昭和60年代。商店会に入ることがステータスという時代があった。ピーク時は100店あった会員数が平成20年代に約50店になったことも。

「稲村（前）会長が直接訪ねて来られ、若手の参加をと口説かれました。親世代がやってきたことの繰り返しをやめ、変化を考えられたんでしょうね」と恩田学さん。イベント前は毎週のように集まり、話し合う日々が2年ほど続いたという。

「イベントを盛り上げられたのは、我々2代目だけでなく、自分で店を立ち上げた創業者が会員



港南台夏祭りで活躍する商店会メンバー



荒井和彦さん
(ヨコハマファイブ 二代目)

になり、いろんな発想を持って参加してくれたことが大きいです」と荒井和彦さんはこの6年を振り返る。

親世代から仕事を引き継ぎ、あるいは創業者として、本業も多忙となるなか、商店会の組織を渉外、広報、総務などの部会制とし、若手メンバーがそれぞれを担当する副会長や役員となる。そして、田邊義勝会長と共に掲げた「会員増強」の目標どおり、イベント参加店を中心に会員数は少しずつ増え、この夏70店を超えるまでに盛り返した。

地域活動する商店会！

岡本征一さんは、創業者の一人。自治会の会長を務め、連合夏祭りを手伝ったのをきっかけに商店会に誘われた。「本来、商売とボランティアの境目はないと思っています。お客様を楽しませるのがいちばんですよ。」

荒井さんは「父親からは、商売

が半分、まちのことを考えるのが半分だとずっと言われてきました」。恩田学さんは、「商店会だけでイベントは運営できませんから。商店会がつなぎ役となり、周囲をまきこんで地域のみんなで運営するというのがあるべき姿なんだと思います」。

地域のためという先代からの思いを受け継ぎつつ、いまの時代に合った商売の仕方を模索中だ。き「まちゼミ」や地元の行事などを通して、行政や自治会、他地域の商店会とのつながりもできた。

そして、話題はこれからの商店会の活動に。

これからの港南台のために

「ネットで売買する時代でも、対面で買いたい人はいっぱいいますよ」と鈴木さん。商店会は、個人商店の強みをアピールする組織であるべきと熱く語る。「個人商店は最高に面白いです」



岡本征一さん
(オカモトジュエリー 創業者)

よ！やりたいことがすぐできる。接客次第で安心して買ってもらえる」と岡本さんも声を合わせる。

「店の前に素敵に花を植え、道行く人の目を楽しませるとか、店が地域に貢献するやり方ってありますよね」「手すりやエレベーターをつけるなど高齢者も買い物しやすい環境を整えないと」。

そしてこの座談会で出た次の目標は、

『商店会の明確なミッション、5年後のビジョンを示したい。そのための意見を出し合える場を作りたい』ということ。店がまちの顔を作り、文化を作ると言う。また5年後、この商店会はどうな変化を遂げているのか。港南台のこれからの期待したい。



第3回港南台まちあるスタンプラリー
(2014年)のポスターに使われた写真

注1 港南区商店街連合会が主催し2016年にスタート。2017年度から実行委員会が主催。



壹岐生まれの イキのいい女 人と人を繋ぐ名人

民生委員 **塩澤 うめのさん** *Umeno Shiozawa*

レポート◎菅野 裕子/塩崎 水映子 文◎塩崎 水映子 撮影◎菅野 裕子 取材日◎2018年7月31日

港南台の様々な活動やイベントで、楽しそうな笑顔を見かけることが多い、塩澤うめのさん。地域の七夕まつり、音フェスタ港南台……。子どもたちと保護者、お年寄りや趣味の集まりと、彼女を知る人はとても幅広い。その魅力とバイタリティの素を知りたくて、お話を伺った。

地域活動

長男が中学2年の時にPTA役員を引き受け、その後副会長になったことで、会長さんや他の役員さん、地元の方々とお付き合いが始まった。

平成6年から港南区で主任児童委員制度が始まり、港南台を担当。港南台の活動「子どもフォーラム」、民生委員の中の活動「子ども部会」、ケアプラザでの「ピーカーブー」など、子どもたちに関わる活動を続けていた流れで「港南台子育て連絡会」を立ち上げ、現在も続いている。

主任児童委員が定年を迎え、地元の民生委員になりお年寄りも守備範囲に加わった。

生立ち

長崎県壹岐市出身。とにかく自然が豊かな島。農家で忙しかったけれど、暇になると山に行って竹を切って釣り竿にし、ミミズを餌に釣り。フナやウナギ

も釣れた。ウニ、アワビ、サザエ、トコブシも潜らなくても採れた。

実家では品質管理が大変なたばこ乾燥させる建物で何日も寝ずの番をする父。温度管理も大変。手伝うと手が真っ黒になった、稲、綿、そば、養鶏など様々なものを育てていた。

なんでも一から手作りの生活。豆腐は大豆から作り、近所の家の建前で配ったり、天草を採ってどころてんを作ったり。年末になると母がそばを打ち「そばあります」の看板を出していた。

「牛も飼っててね、れんげ畑に連れて行って放し飼いにしながら、妹と二人寝転がって歌ったりして。楽しかったわ」と懐かしそうに笑う。

小学生の頃から朝の炊事、お弁当作り（卵を取ってきて焼き、畑に行って牛蒡を抜いてきんぴらにしたり）を引き受けていたが、大変だとは思わなかったそうだ。

「勉強が好きだったの。小学校では放課後に先生が習字やそろばんを教えてくれてね。採点のお手伝いも楽しかった」
小学校時代からお友達やすべての担任の先生の名前を覚えていて、どんなエピソードが湧いてくる。

交換日記を通じて心のやりとりをした担任の先生や、隣のクラスの先生とは今でも交流が続いていて、帰省すると持っていったお土産よりたくさんお土産を持たせてくれる。



貧しくて忙しいながらも両親が心がけてくれていたことで心は豊かに育まれてきた。

港南台に対する思い

義父が地元の人だったこと、周りに親戚も多かったこともあり日の峰の自治会館の発起人(義父の遺志)を引き受けた。地元の人と他所から来た人が一緒に、港南台の地盤を築いてきたのを見てきたからだ。

地域に少しでも役に立てたらという思いで主任児童委員を引き受けスタートした子育て支援。24回目を迎えた一中校区音楽交歓会は、声をかけた小中学校のPTAコーラスや、平均年齢80歳のコールはまなすが加入を決めてくれたことで成立した。いろんなご縁をつないでいった結果、今では「営業部長」などと呼ばれていると笑う。「私、頼み上手でね。つながりを作るといいうのは素敵な活動。準備など大変な作業もあるけれど、それはまた絆を深める喜びでもあるのよ」高校生の部活動のように楽しんでやっている姿は、初めて参加するメンバーの気持ちも和ませることだろう。

なんでも楽しんでやる

多忙な塩澤さんだが、意外にも本やテ



代表を務める港南台混声合唱団では結成以来ソプラノを歌い続けている。

レビのサスペンスものが好き。ハマっているのはナックロ。母・姉譲りで手芸も好きで、コーラスメンバーのステージ用コサージュはすべて塩澤さんの手作り。おせちも手作り。

頭も手も体も、休みなく動かしている印象。これが若々しきの秘訣か…

PTA役員、民生委員。なかなか自分から引き受けるのは大変な仕事。「私、なんでも楽しんでやるの」。イベントでは、進行のつなぎでマイクを託され、ゲストにトークを振ることが多い。そんなときも、場を和ませながら言葉を引き出す名人技はおそらく港南台随一。その人の個性を表すエピソードを心に刻み、忘れずに大切に行っていることに驚く。

塩澤さんの発信力の大きさが印象的だが、受け止める側の人としての許容量

の大きさに驚かされた。繋がりが続くことを大切にするけれども深く入り込まれることを望まない人には距離感を保って接することも忘れない。彼女が人のためにたくさん尽くしてきたこと、縁を結んできたことを知っているから彼女の魅力的な笑顔が見たくて周りに人が集まってくる気がした。



小学3年の頃 妹と自宅の前で

高校2年の頃 自宅の牛小屋の前で(右端)

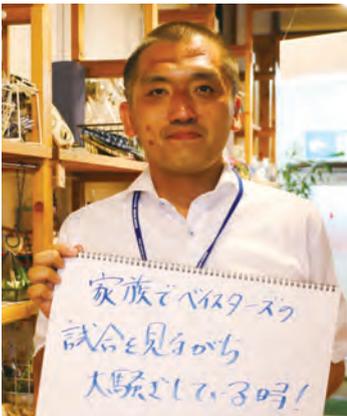
しあわせだなあ と感じるときは? PART ②



265. 真こころ



266. 読書サポーターズ in 港南台



267. 塾の先生



268. ペーパークラフト作家



269. 大学生



270. KINGDOM 美容師



271. 小箱ショップオーナー etOile



272. 港南台在住



273. タウンカフェによく来る親子

すたっふ
つぶやき

いつも新しい発見や驚き満載のふ〜のん。9号を迎えてもまだまだ話題は尽きない。人も団体もお店も、いろんな思いがいっぱいつまっています奥深いな〜と思う。(岡野)

「ふ〜のん」参加は2回目ですが、ベビーカーで行ってる子どもの方が気付いていることがあったり…！この分では、私の代わりに取材をし始める日もそんなに遠くないのでは!?(笑)(倉松)

来年は第10号です。10周年です。泣けます。初めは何をどう作るかも決まっていなくて、手探りの一歩一歩でした。「まち」って何なのか、つかめてきたような気がする第9号です。(かねこ)

「まちある隊」発足の瞬間に立ち会って早6年。初対面だった若手?メンバーさんが今やタッグを組み、まちの将来を語る心強い存在に。2時間半あつという間の楽しい座談会でした。(菅野)

尊敬する塩澤さんのお話を伺えるという素晴らしいチャンスに恵まれて、今年は無理かなと思っていたふ〜のん参加が叶いました。子どもの声の聞こえる編集会議も楽しかった!(塩崎)

お手伝いをする度に、新たなお店や住まう方が知ることができ、新鮮な気持ちになります。(竹田)

暑い取材、熱い編集委員、厚い地域のつながり…住んでいる「まち」や「ひと」を知ってる何だかほっとしますよね。これからも温かい空気で「ふ〜のん」を作っていきたいですね!(田中)

自分たちの街のことを、いろんな角度から見つめ直す機会になり、そして魅力を再発見できるふ〜のんはやっぱり魅力的(さいとう)

気づけば9号なんですわ〜。(365×9)日、あつという間でした!「港南台まちなかインタビュー」が1000人になる日も、そう遠くない未来なのかな。(塚原)

バックナンバー



創刊号 2010年10月発行



vol.2 2011年10月発行



vol.3 2012年10月発行



vol.4 2013年10月発行



vol.5 2014年10月発行



vol.6 2015年10月発行



vol.7 2016年10月発行



vol.8 2017年10月発行

バックナンバーご希望の方は、下記お問い合わせまで、ご連絡ください。
在庫がありましたら、お送りします。(送料負担をお願いします)

次号は
2019年10月頃発行予定です。

お問合せ
港南台タウンカフェ
TEL : 045-832-3855
住所 : 横浜市港南区港南台4-17-22 ブックスキタミ2F
URL : <http://www.town-cafe.jp>

ボランティアスタッフ
(企画・取材・編集)

岡野 富茂子
金子 いずみ
菅野 裕子
倉松 久美子
塩崎 水映子
竹田 真奈美

事務局

齋藤 保
田中 美和

横浜港南台商店会情報部会

恩田 学
稲村 善徳

デザイン

塚原 祥子

その他、中学生職業体験レポート活動、インターンシップなどの活動として参加されたみなさんのご協力により編集・作成されました。

発行 : 横浜港南台商店会、港南台タウンカフェ通信編集委員会
後援 : 港南台連合自治会、日野連合町内会
制作 : 株式会社 イータウン

この冊子が、まちへの関心を生み出したり、
新しい出会いや楽しいことが生まれるきっかけになればいいな…。
地元商店主、学生、主婦…みんなそれぞれの暮らしの中で
まちへの想いをもってつくりあげた、参加型の手づくり情報マガジンです。
ふ～のんで一緒にまちを楽しんでいただけたら嬉しいです。



港南台タウンカフェサポーター募集中

「ふ～のん」発行や、テント村運営・市民レポーター育成など、港南台のまちづくり活動推進のためにご協力をお願いします。

サポート費用 一口 1,000円（年間） 複数口も歓迎いたします
（団体・企業様は10口以上でお願いしています）

ゆうちょ銀行振替口座 00290-0-124517 港南台タウンカフェ
※港南台タウンカフェでの納入も可能です（現金のみ）



詳細はこちらまで 港南台タウンカフェ TEL：045-832-3855 FAX：045-832-3864

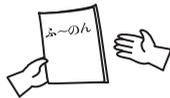
あなたにできるコト



カンパで協力



サポーター
（応援会員）になる



読み終わった「ふ～のん」
を知り合いに手渡す



まちのネタを集めて
知らせる



「ふ～のん」の
感想を寄せる

港南台タウンカフェサポーター

杉浦 真知子/川嶋 庸子/相場 正史/村上 佳江/渡辺 ひとみ/篠崎 桂子/野口 幸子/林田 典子/川崎 治美/関水 さやか/
村田 尚子/柴田 仁夫/高嶋 賢一/佐藤 大伍/小林 秀徳/大塚 宏（敬称略・順不同）
※2017年10月～2018年9月末までにご協力いただいた方をご紹介します。

(株) せんざん / (株) 住宅リフォーム神奈川 / (株) SUISHAYA / ヨコハマファイブ (株)



「ふ～のん」は、「彫刻と野鳥とマロニエの街・港南台」をキャッチフレーズに
まちづくり活動を行う「横浜港南台商店会」が中心となって発行している
市民参加型の手づくり情報マガジンです。
商店会のみならず、地元の事業者や学校、市民ボランティアの方々と連携を図って
編集しています。また、商店会の事業費などの他、地域の方々のサポート費用等で
運営・発行しています。ご理解とご協力をいただけると幸いです。